AIDS UPDATE

No.117 2015.9.29

広島大学病院　エイズ医療対策室　内線5351

中四国エイズセンターホームページ　URL:www.aids-chushi.or.jp

◆研修会報告

■第9回中国四国地方エイズ診療医師のための研修会報告　医師　齋藤誠司

今年度の研修会は、通年のごとく翌日が休日で比較的参加しやすいというメリットから三連休の中日、非常に厳しい猛暑の中、7月19日(日曜日)に開催致しました。また日常診療でご多忙の先生方にできるだけ負担の少なくなるように、前回に引き続き日帰りの研修日程と致しました。ご多忙にも関わらず、9人の先生方にお越しいただき、講師の先生方のご協力のもと、短い時間ながらも充実した研修会を終えることができ、真に感謝致します。

今回の研修会の講師には、東京で数多くの患者さんを診療され、長年エイズ診療にご活躍されております東京医科大学病院臨床検査医学科の村松崇先生をお招きいたしました。またワークショップのチューター役として過去に当研修会に2度ご参加経験のある島根大学医学部附属病院腫瘍・血液内科の井上政弥先生にもお越しいただきました。日常診療が非常にお忙しい中、東京・島根から日帰りで、半日の研修会のためだけに広島にお越しいただきましたことをスタッフ一同感謝致しております。村松先生のレクチャーでは、HIV診療の基本から始まり、最近の新薬の特徴やARTの選択・開始基準、長期療養と患者の高齢化などエイズ診療が抱える問題、慢性腎臓病に関する現状など症例を通して分かりやすくご講演いただきました。

午後のプログラムでは、第6回の研修会から導入したPBL（問題解決型）形式のワークショップと検査の告知に関するロールプレイを行いました。まずワークショップでは「典型的な日和見疾患の診断・治療」について、2グループに分かれグループ学習を行いました。各グループにはスタッフと協力医師が2名ずつチューターとして指導につき、グループ内で司会進行・書記・発表者を決めて学習を進めていくやり方です。グループ毎で与えられた問題症例（3症例）に関して、その診断方法・治療方針・臨床経過・問題点などについてチューターの指示のもとでディスカッションを行い、グループ毎で意見をまとめてもらいます。最後に選択した1症例について発表者がプレゼンテーションを行い、村松先生からご意見をいただきました。このグループで話合った内容を発表するということが参加者には多少の緊張感を与え、学習効果に繋がっているのだと思います。皆さん真剣にディスカッションされておりました。

次のロールプレイでは２つのグループに分かれ、HIV検査を勧める場面、陽性告知を行う場面の疑似体験をしていただきました。特に告知の場面では、実臨床の現場さながらの緊張感が味わえ、言葉の選択がとても難しかったとの声が多く聞かれました。毎年、体験された先生方からは「良い経験になった」、「その後の診療現場に活かせる」とのご好評をいただきます。どの研修会でも欠かせないロールプレイにはより長い時間をかけ、より多くの参加者の方に体験していただけるよう目指していきたいと思います。今後も引き続き医師研修を行い、中四国のエイズ診療に携わる先生方が手軽にご参加できるより良い研修会を目指して努力していきたいと考えております。

■「第34回抗HIV薬服薬指導のための研修会」に参加して　薬剤部　藤井健司

2015年8月1日、2日に第34回抗HIV薬服薬指導のための研修会が、ホテルセンチュリー21広島で開催されました。私はこの研修会のスタッフとして参加させていただきましたので、報告いたします。

この研修会は一部を「HIV/AIDS専門カウンセラー研修会」と合同で行っており、薬剤師としての専門性を学ぶだけではなく、幅広い視点から患者をサポートする技術を学ぶことを目的として行っております。 参加人数は薬剤師39名、心理カウンセラー・ソーシャルワーカー11名、スタッフ30名でした。研修会のプログラムを示します。

1日目
- 開会　:説明、自己紹介等
- 講義1:「HIV感染症の治療」
  （大阪医療センター 感染症内科:医師　矢嶋　敬史郎先生）
- 講義2:「HIV感染者の心理社会的問題とカウンセラーの役割」
  （大阪府立大学 地域保健学域教育福祉学類/人間社会学部社会福祉学科:山中　京子先生）
- 症例検討:岐阜大学医学部附属病院の症例
  （岐阜大学医学部附属病院:薬剤師　石原　正志先生）
- 演習:「オリエンテーション」
  「ロールプレイによる服薬指導の体験的学習」
  （広島大学 保健管理センター:臨床心理士　内野　悌司先生他）
- 夕食・意見交換会

2日目
- 演習:「ロールプレイによる服薬指導の体験的学習」
  （広島大学 保健管理センター:臨床心理士　内野　悌司先生他）
- レポート作成

初日はまず、大阪医療センターの矢嶋先生に「HIV感染症の治療」について講義していただきました。HIV感染症の病態、日和見感染症、抗HIV療法、物質依存についての内容でした。矢島先生は医師になる以前にカウンセラー経験があることもあり、今まで私が聞いたHIVについての基礎的な講義とは視点の違う説明もあり、大変勉強になりました。

次に大阪府立大学の山中先生に「HIV感染者の心理社会的問題とカウンセラーの役割」について講義していただきました。HIV患者は社会的に孤立しやすく、心理的な問題を抱える人が多くいるため、カウンセラーはとても重要な役割を担っていると感じました。

その後は薬剤師とソーシャルワーカー・心理士に分かれて研修を行い、薬剤師グループは岐阜大学附属病院の石原先生に症例検討を行っていただきました。薬剤耐性のある症例、相互作用が難しい症例などのARTの組み合わせについて3つの班に分かれて検討しました。どの症例も一筋縄ではいかない困難症例であり、今後抗HIV治療をしていく上で、大変参考になりました。

1日目の最後と2日目は全員合同で、広島大学の内野先生の指導の下「ロールプレイによる服薬指導の体験的学習」を行いました。全体を6グループに分けて、その中で、患者役、薬剤師役もしくは心理士・ソーシャルワーカー役を決めてロールプレイを行い、その様子を撮影し、振り返り、皆でディスカッションを行いました。症例は「薬剤導入の症例」「精神的理由で服薬が不規則になった症例」「注意力、理解力の問題で服薬ができていない症例」の3つの設定で行いました。患者の背景から細かく設定し、実際の患者との面談に近い状態で行いました。そのためロールプレイでしたが、実践的で実際の服薬指導の参考になりました。

この研修は講義だけでなく、実際の症例やロールプレイを行うことで、身につけた知識を実践することができ、明日の診療に役立つ研修だったと思います。また、夕食は参加者全員で会食を行い、情報交換の場にもなり、他病院での取り組みなども聞ける有意義な会になりました。

この研修で得た知識、経験を今後の治療にいかしたいと思います。

■平成27年度第1回HIV/AIDS専門カウンセラー研修会の報告

エイズ医療対策室　臨床心理士　浅井　いづみ

8月1日～2日に中四国ブロックの「HIV/AIDS専門カウンセラー研修会」が開催されました。私は研修会のスタッフとして参加しました。この研修会は広島県臨床心理士会主催の研修会で、中国四国ブロックのエイズ派遣カウンセラー、エイズ治療拠点病院のカウンセラーとソーシャルワーカーが対象です。「薬剤師のための抗HIV薬服薬指導研修会」と一部合同のプログラムです。

元心理士という医師の矢嶋先生は、医学的知識だけでなくHIV感染患者が抱える心理社会的問題、チームでかかわることの意味など幅広い内容を話されました。山中先生は、医療体制班においてHIVカウンセリング体制の普及と充実に関して長年研究をされてきた先生です。研修会では、カウンセリングだけでなく心理検査を通じて心理職がチーム医療に貢献する可能性と課題について研究結果を提示してくださいました。

心理・ワーカーセッションは事例検討でした。１日目は「派遣カウンセリング」をテーマにHIV抗体検査陽性告知直後のカウンセリングについて報告されました。経験の少ない派遣カウンセラーには、実際の場面が具体的にイメージしやすくなり、病院勤務の人にとっては、陽性者がどのような告知体験を経て病院へつながるのかが理解できたと思います。

２日目は、ソーシャルワーカーによる事例報告でした。患者さんの高齢化、キーパーソンの不在、長期療養先の問題など多くの課題を含んだ事例でした。今後のHIV感染患者さんの支援は病院だけでなく地域との連携が必要不可欠になってくることを痛感しました。

ロールプレイでは矢嶋先生と山中先生をはじめ、参加者の皆さんから暖かくかつ的確なコメントが出されました。「患者さんの立場に立った支援の重要性」がテーマに挙がったと思います。「質問攻めにならない」「丁寧な説明」「患者さんの不安に思うことから情報を伝える」、当たり前なようで、やってみると意外に難しいものだと思います。対人支援における支援者の基本的態度を改めて考える機会となりました。

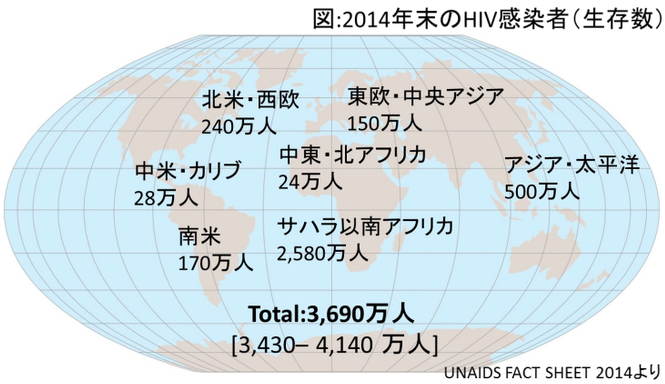
この研修会は、多職種が一堂に会し一緒に学ぶことができる貴重な機会です。他職種と意見を交わすことでチームにおける他職種の専門性や役割を理解することができたり、自分にはない視点を得ることができます。また、他職種に対して自分の職種の役割を理解してもらうよい機会です。私は今回３回目の参加でしたが今後も参加していきたいと思います。

◆エイズの現状～世界では？ 本院では？～

輸血部長/エイズ医療対策室長　藤井輝久

国連合同エイズ計画（UNAIDS）から、「ファクトシート2014年世界の状況」が発表されました（図）。これによると、2014年末現在、世界のHIV感染生存者数は3690万人、新規HIV感染者数は年間200万人（2000年より35%減）、エイズによる死亡者数は年間120万人（ピークだった2004年より42%減）となっています。新規感染者数の減少よりも、死亡者数の減少が上回っているため、生存者数は過去最高になっています。これは、治療薬により感染者が延命できるようになった結果と考えられます。

図:2014年末のHIV感染者（生存数）



UNAIDS FACT SHEET 2014より

それを端的に示すデータもあります。2015年3月には1500万人が抗HIV治療を受けていることも分かっており、9ヵ月前に比べて140万人増加しています。先進国、途上国に関わらず、早期に抗HIV治療を受けることが、世界中で急速に広まっていると言えます。

さて、本院に目を向けてみますと、累計患者数は297人で、現在入院・通院併せて170人の感染者・患者さんのケアを行っています。月平均の外来受診患者数は90人を超える状況になっています。抗HIV治療を受けている人は、148人で、そのうちの約93%が血中にHIVを検出できない状態になっています。ですから、入院するような状態の患者さんはごくわずかで、ほとんどが外来治療で済むようになっています。

2012年のNEJMに報告された、ヘテロセクシャルのカップルにおける抗HIV薬のHIV伝播予防効果を示した臨床試験を根拠に、“Treatment as prevention”（(感染伝播を)予防のための治療）が推奨されていますので、これからはエイズも「早期発見・早期治療」の時代に入っていくと思われます。

しかし、本院の感染者・患者さんの平均年齢は40歳を超えました。60歳以上は12人と他の疾患と同様高齢化が見られています。そのため、HIV関連疾患ではなく、他の合併症で入院を余儀なくされるケースが目立つようになってきています。今後も従来と変わらず、年間約20~30人の新規患者さんが来院されると予想されますが、今や慢性疾患となった「HIV感染症」ですので、治療により寿命は延長すると思います。しかし、今後も合併症等の治療に難渋するケースが出てくるものと思います。みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

◆新しい薬が出ました

～1日1回1錠が可能に～

新薬情報

■トリーメク

アバカビル、ラミブジン、ドルテグラビルの配合錠で、今までのエプジコムとテビケイを合わせたお薬です。１日１回１錠、食事に関係なく服用できます。

エプジコム　テビケイ　トリーメク

●基本情報
・一般名（成分名）：ドルテグラビル/アバカビル/ラミブジン
・略名：TRI（DTG/ABC/3TC）
・分類：シングルタブレットレジメン（STR）

●服薬方法
・服薬方法：1回1錠を1日1回
・毎日決まった時間であれば、食事に関係なく服用できます
・保管方法：　室温

●主な副作用
・症状：悪心、不眠症、頭痛、めまい

●注意事項
・ミネラル（ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ、ｱﾙﾐﾆｳﾑ、鉄、ｶﾙｼｳﾑ、亜鉛）を含むサプリメントは本剤の効果が減弱する可能性があります。
・過敏症状（発熱、発疹、疲労感、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛、眠気、筋肉や関節の痛み、頭痛、呼吸困難、咽頭痛、咳など）：服用開始後、6週間以内（平均11日目）に出現することが多いです。
・過敏症状のために服用を中止した場合は、アバカビル（ABC）を含む製剤を二度と服用しないようにしてください
・腎機能低下により処方が変更となる場合があります。

エイズワーキング

みなさん、こんにちは。
エイズワーキンググループです。

■第29回看護師のためのエイズ診療従事者研修にスタッフとして参加■

今回は、8月19・20日に開催された研修会にスタッフとして参加しましたのでご報告いたします。この研修は、医療・看護・心理社会的面からHIV/AIDSについてを学ぶ初心者コースのプログラムとなっており、中国四国地方より看護師15名の方が参加されていました。スタッフとして研修に行ったワーキングメンバー4名の感想を載せています。

研修生の皆さんが積極的に講師へ質問してくださり活発な意見交換ができました。次回の研修もたくさん発言できる環境作りに努力したいと思います。 小川良子

2日間の濃厚な研修で、スタッフとして楽しく参加させていただきました。とくに、ロールプレイでの参加者の皆様の一生懸命な姿がとても印象深かったです。重末喜恵

今回初めて、現在9階西病棟で取り組んでいるエイズ患者の看護について発表させていただきました。取り組んでいる内容についてお褒めの言葉をいただけて嬉しかったです。質問もいただき、緊張の連続でした！ 山下真由美

15年位前に始まったこの研修は、アクティブラーニングの手法が取り入れられています。効果的な方法が、研修生の笑顔につながっていると思います。鍵浦文子

■一緒に活動しませんか？■

HIV/AIDS看護に関心をお持ちの方ご参加お待ちしています。

☆定例会☆
日時：毎月第2木曜日17:30～18:30
場所：入院棟3階　カンファレンスルーム